

現実への三つの眼差し

自然科学・**社会科学**・**人文科学**の世界理解をめぐる対話

予測不可能性と不確かさが常態化するVUCA*の時代において、私たちは、単一の視点では捉えきれない複雑で多面的な現実といかに向き合うべきかを問われている。これまで自然科学・社会科学・人文科学は、それぞれ固有の問いと方法にもとづき、世界の異なる側面を解明してきた。しかし今日では、個別の学問領域の垣根を越えた総合知の構築が求められている。

自然科学において、私たちの世界理解は本質的に「近似」や「仮説」に基づく。不完全であることを前提としたこの理解は、単なる限界ではなく、私たちの選択や創造を可能にし、さらには社会の意思決定とも深く結びついている。社会科学としての管理会計研究では、理論的考察とともに、山間部地域に固有のマネジメント課題と向き合うための方法を構築することが課題となっている。一方、人文科学のひとつである仏教学は、文献にもとづいて仏教の哲学的世界観を解明してきたが、仏教が社会に根ざした宗教である以上、その社会へのコミットメントも視野に入れ、社会学的アプローチも行われている。

本企画は、自然科学、社会科学、人文科学という性格の大きく異なる三分野をあえて並置し、それぞれの世界理解の対話を試みる。異なる方法論の背景にある共通の問題意識を共有することで、これからの学術研究における複眼的な現実理解の可能性を探りたい。

*VUCA=Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)の頭文字を取った造語。将来の予測が困難な、激動の時代を表すキーワード。

令和8年7月10日(金) 13:00
16:30

参加費無料

どなたでも参加できます

申込フォームよりお申し込みください

信州大学 松本キャンパス附属図書館・中央図書館2階セミナー室
長野県松本市旭3-1-1

13:00 ▶ 13:20 **開会挨拶** 信州大学長 **中村 宗一郎**

日本学術会議副会長 **磯 博康**

日本学術会議第二部会員、国立健康危機管理研究機構 国際医療協力局
グローバルヘルス政策研究センター長／理事長特任補佐

13:20 ▶ 13:30 **主催者挨拶** 日本学術会議中部地区会議代表幹事 **高田 広章**

日本学術会議第三部会員、名古屋大学未来社会創造機構教授

13:30 ▶ 13:40 **科学者との懇談会活動報告** **松田 正久**

中部地区科学者懇談会幹事長／愛知教育大学名誉教授、元学長

日本学術会議第196回総会を傍聴して **保柳 康一**

中部地区科学者懇談会長長野県幹事／信州大学名誉教授

13:40 ▶ 16:25 **世界は一つに決まるのかー物理と情報から考える現実と選択**

藤田 あき美 信州大学工学部准教授

中山間地域における新たなマネジメントの可能性

ーひと・環境・いとなみから地域の在り方を考えるー

関 利恵子 信州大学経法学部教授

仏教から見た人間の現存在と社会

吉水 千鶴子 日本学術会議第一部会員、筑波大学人文社会系名誉教授、公益財団法人東洋文庫研究部研究員

総合討議(質疑、まとめ)

16:25 ▶ 16:30 **閉会挨拶** **司会** 日本学術会議中部地区会議運営協議会委員 **護山 真也**

日本学術会議連携会員、信州大学人文学部教授



ハイブリッド開催

参加を希望される方は令和8年7月3日(金)までに下記URLまたはQRコードより事前申込みをお願いいたします。定員になり次第、事前申込みの受付は終了いたします。

<https://forms.gle/rwcNG7LFKtEE7W51A>



申込フォーム

お問い合わせ

日本学術会議中部地区会議事務局 (名古屋大学研究協力部研究企画課内)

TEL: 052-789-2039 FAX: 052-789-2041

信州大学総務部総務課

TEL: 0263-37-2112 FAX: 0263-36-6769

主催／日本学術会議中部地区会議

共催／信州大学

<https://www.scj.go.jp/ja/area/index.html>

講師プロフィール

世界は一つに決まるのか — 物理と情報から考える現実と選択



藤田 あき美

信州大学工学部准教授

自然科学において、世界理解は本質的に近似や仮説に基づく不完全なものである。この前提は単なる限界ではなく、選択や創造の条件として機能する可能性がある。投げたボールの軌道やロケットの着地が示すように、自然法則は未来の予測を可能にする。一方で、情報が物理的に実装され、法則のもとで保存・変換されるならば、計算そのものが物理過程として実現されていると捉えられる。このとき予測は、外在的な操作ではなく、物理世界の中で進行する計算として理解される。しかし計算理論が示すように、決定論的な系であっても未来が原理的に予測できない場合が存在する。この予測不可能性は単なる無知ではなく構造的に生じるものであり、そこから不可避に生じる誤りが、知識の更新と新たな選択・創造の契機として理解しうる。

● PROFILE

米国コロンビア大学大学院にて天文物理学のPh.D.取得。信州大学工学部准教授。専門は天文物理学を基盤とした物理と情報の基礎、および科学的認識論。近年は、決定論と計算理論に基づく予測不可能性の問題を軸に、講演・執筆・発信活動を通じて、科学と社会の意思決定の接続やジェンダー、グローバルコミュニケーションといった領域に議論を展開してきた。こうした実践的関心を背景に、多世界解釈における未来の非一意性と選択・創造の関係について理論的考察を進めている。著書に『宇宙思考』『すすすぎる宇宙・天文の図鑑』。

中山間地域における新たなマネジメントの可能性

— ひと・環境・いとなみから地域の在り方を考える —



関 利恵子

信州大学経法学部教授

人口減少や担い手不足に直面する中山間地域では、多様な関係者が納得できる意思決定の難しさが大きな課題となっています。しかし、こうした現場では「会計的な発想」は敬遠されがちであり、目に見える数字だけでは、人々の豊かな「いとなみ」や地域の文脈を捉えきれない限界があります。本講演では、本来会計とは対極にあると思われがちな地域課題にあえて管理会計の視点を持ち込み、地域を「ひと・環境・いとなみ」のつながりとして捉える新たな試みを提案します。地域に根ざした「いとなみ」を尊重しながらも、様々な思いを一つに繋ぐ「対話の道具」として、これからのマネジメントが果たすべき役割と可能性について展望します。

● PROFILE

明治大学大学院経営学研究科博士後期課程単位取得退学。2000年10月より信州大学経済学部に着任、現在、経法学部教授。専門は管理会計。

これまで、中小企業や農業分野において、管理会計手法の導入支援やアクションリサーチを実践してきた。近年は、長野県の中山間地域をフィールドに、地域のマネジメントや合意形成の研究に注力。地域の「いとなみ」を大切にしながら、持続可能性を支える新たな仕組みづくりを探求している。

仏教から見た人間の現存在と社会



吉水 千鶴子

日本学術会議第一部会員
筑波大学人文社会系名誉教授公益財団法人東洋文庫
研究部研究員

人文科学(人文学、Humanities)は、主に人間の精神活動によって創出された文化を研究対象とし、哲学・歴史・文学・言語・芸術などの分野を探究する学問である。社会も人間の集団的営みによって作られるものであるから、社会学や人類学とは近接する。私たちが研究対象としての「仏教」と向き合うとき、まず、私たち自身と社会が無常であるというその世界観と向き合うことになる。思想研究においては、このように、研究対象の世界理解というスコープを通して、研究者は間接的に世界を理解することになる。この少し複雑なプロセスから、私たちが学術を通して自分自身と社会と向き合う多様な視点を持てる可能性を考える。

● PROFILE

学習院大学哲学科卒業、東京大学大学院でインド哲学仏教学を、ウィーン大学人文学部でチベット学仏教学を専攻、1994年博士(Doktor der Philosophie)。サンスクリット語、チベット語の文献を用いてインド・チベットの仏教思想を研究する。仏教を「人の生き方についての提案」と考え、多角的分析に取り組む。著書に『チベット仏教』(2026年6月)『西藏仏教宗義研究』、訳書にカール・スネソン著『ヴァーグナーとインドの精神世界』など。